熱狂と心酔できるリングは生み出されたのか!?
プレ旗揚げ戦「GLEAT Ver.0」試合レポート

リデットエンターテインメントによるプロレス新団体 GLEAT(グレイト)。そのプレ旗揚げ戦となる“GLEAT Ver.0”が 10 月 15 日、後楽園ホールにて 612 人(新型コロナ対策制限人数)の観衆を集めて開催された。

首脳陣は、田村潔司(エグゼクティブディレクター)、NOSAWA 論外(チーフストラテジーオフィサー)、カズ・ハヤシ(チーフテクニカルオフィサー)、そして長州力(オブザーバー)の 4 人。
そこに元 WRESTLE-1 の伊藤貴則と渡辺壮馬(元ペガソ・イルミナル)が所属選手として加わり、団体としての第一歩を踏み出した形だ。

大勢の来場者がスタートを待ちわびる中、大会開始 30 分前には田村と渡辺がリングに現れ、公開スパーリングを実施。田村の流れるようなグラウンドテクニックに、渡辺は翻弄されつつも食らいついていく。両者が握手をしてリングを降りると、客席からは自然と拍手が沸き起こった。

■第１試合 GLEAT シングルマッチ（30 分１本勝負）
〇カズ・ハヤシ（7 分 0 秒、片エビ固め）NOSAWA 論外●

プレ旗揚げ戦のオープニングマッチは、首脳陣同士のシングルマッチに。リストの取り合いから始まった試合は、互いがじっくりと自分の持ち味を出していくプロレスのお手本のような展開に。しかしインサイドワークに長けた NOSAWA がカズを鉄柱にぶつけダメージを与えると、すかさず腰攻めに転じる。

NOSAWA の DDT でピンチに陥ったカズだが、これを切り返すとコーナへのコンプリートショット。ライオンサルトを決めファイナルカットでフィニッシュを狙うが、これは NOSAWA がうまく丸め込んでカウント 2。続く丸め込み合戦も両者 3 カウントは奪えず、互いの得意技が交錯して激しさは増していく。

最後は、NOSAWA の超高校級ラ・マヒストラルをカズが押しつぶして 3 カウント。破れた NOSAWA は、カズと握手をかわすとリングから去っていった。

■第2試合 UWF ルール ダブルバウト（30分1本勝負）
〇船木誠勝＆田中稔<ダウン2エスケープ1>（10分33秒、スリーパーホールド）伊藤貴則●＆大久保一樹<ダウン2エスケープ2>

KO、ギブアップ負け以外にも、ダウンやロープエスケープにより5ポイントを奪われるとTKO負けとなるUWF公式ルールで行われたこの試合。GLEAT所属となった伊藤が、Uの遺伝子を色濃く持つ3人に対していかに立ち向かうかが注目となった。

先発したのは田中と伊藤。互いにローキックで牽制し合あった後に、田中の張り手が伊藤にヒット。伊藤のセコンドについた田村からは「ガード上げろ」などのアドバイスが飛ぶ。田中と代わった船木は、伊藤をタックルで倒しグラウンドへグラウンドへと持ち込むも、ここは伊藤がしのいでスタンドへ。試合がない期間にシェイプアップを果たした伊藤ではあるが、出だしからUの洗礼を浴びることとなった。

両チームともタッチが成立し、試合権利は田中と大久保へ。互いが回転するように関節を狙い合うグラウンドの攻防を、来場者は固唾を飲んで見守る。スタンドへと戻るや、田中が電光石火の飛びつき腕十字。たまらず大久保がエスケープ。1ポイントを失う。逆襲に転じた大久保はミドルキックで田中からダウンを奪い、ポイント奪取に成功。打撃ラッシュで攻め立てるが、ここは田中が足をキャッチしてドラゴンスクリュー。さらにサソリ固めを見せると、場内からは声にならないどよめきが起きた。

両チームがポイントロストを奪う展開が続いた終盤、伊藤が再登場。船木を豪快なジャーマンで放り投げハイキックでダウンを奪うと、場内からは大きな拍手が沸き起こった。しかし歴戦のツワモノ船木も裏拳でダウンを奪い返すと、打撃ラッシュで追撃して再度ダウン。残りポイントは1となる。カウント7で立った伊藤だが、掌底からのスリーパーに捉えられると船木の身体をタップ。船木、田中組がポイントアウト勝利をおさめた。

■第3試合 UWF ルール（30分1本勝負）
〇朱里<ダウン2エスケープ2>（11分54秒、レフェリーストップ）優宇●<ダウン2エスケープ2>

今大会で唯一組まれた女子選手の試合は、なんと UWF ルールでの対戦。互いに初挑戦の UWF ルールではあるが、総合格闘家として UFC 出場を果たした朱里のテクニックと、柔道仕込みの技と 100kg 近い体躯を持つ優宇のパワーが、どのような化学反応を生み出すかに注目が集まった。

両者がクリーンに握手を交わすとゴング。優宇はレガースを着用していないためキック攻撃は禁止となる。シャープなキックからグラウンドへと持ち込んだ朱里が腕十字狙いでエスケープを奪うも、続いての展開ではタックルをしのいだ優宇が V1 アームロックで朱里の腕を絞りあげるという緊張感ある出だしとなった。

互いにポイントを奪い合う一進一退な展開の中、三角絞めの体制の朱里を持ち上げた優宇がマットへ叩きつけるとたまらずダウン。チャンスとみた優宇は、バックエルボーからのキャノンボールで朱里へダメージを与え、巴投げからの腕十字。スタンドからの再開で突進してきた優宇に対し、カウンターの膝を叩き込んだ朱里は立て続けにハイキックでダウンを奪う。

両者残り 2 ポイントの状況で、朱里はミドル連打、優宇は逆水平チョップと打撃の応酬。パワーボムの要領で投げ捨てた優宇はセントーンで追い打ちし、朱里のポイントは残り 1。優宇は再度パワーボムを狙うが朱里は体制を崩しながらこれをリバースするとハイキック一閃。ダウンを奪い両者残り 1 点となる。

ともに残り 1 ポイントと後のない状況で、朱里は膝連打で体勢を崩すとグラウンドで渾身のスリーパーホールドへ。優宇が動かなくなったのを見てレフェリーが試合を止めて決着。試合後、健闘を称え合う両者に大きな拍手が送られた。

■メインイベント GLEAT シングルマッチ（30 分 1 本勝負）
〇拳王（16 分 21 秒、アキレス腱固め）渡辺壮馬●

プレ旗揚げのメインは、GLEAT 所属となった渡辺と、NOAH の拳王とのシングルマッチ。武闘派ユニット・金剛のリーダーとして猛威を振るう拳王に、マスクを脱ぎリングネームを本名へと戻した 21 歳の俊英・渡辺が、どう立ち向かうが注目された。

K-1 WORLD GP 第 4 代王者の武尊が登場し、渡辺へ花束を贈呈。実況席でゲスト解説の長州力アドバイザーが見守る中ゴングが打ち鳴らされる。両者が睨み合ったままの状態からリストを探り合う静かな立ち上がり。拳王が執拗なヘッドロックで絞り上げるも、渡辺はスピーディーなロープワークで撹乱し、ドロップキックでダウンを奪う。

逆水平チョックや前転からのエルボーで攻める渡辺だが、拳王は仁王立ちとなり「オラ来いよ！」と挑発。エルボーを受けるもミドルキックで渡辺を倒し、厳しいサッカーボールキックでやり返す。

渡辺を場外へと連れ出した拳王は、鉄柵攻撃。因縁のある放送席の長州をにらみつける一幕も。劣勢となった渡辺だが、ローリングソバットで拳王の顔面を打ち抜くと反撃を開始。場外へのトペ・スイシーダ、コーナートップからのミサイルキックと畳み込んでいく。

しかし経験に勝る拳王から流れを奪い返すまでにはいかず、ダイビングニードロップやアンクルホールドで追い込まれていく。この一戦への覚悟を試すかのように両手を広げる拳王に、渡辺は気持ちで返していくも劣勢は覆せず。逆転の一手として放ったファイヤーバードスプラッシュは拳王にかわされてしまう。

両者ダウン状態から立ち上がった渡辺は「負けねえぞオラ！」と叫びながらエルボーを繰り出すも、これをかわした拳王はキックで逆襲。丸め込み狙いも拳王には通じず、カウント 2 で返されてしまう。ふらつく渡辺に対し、拳王は PK からのダイビング・フットスタンプ！ これでトドメかと思いきや、あえてフォールせずにアキレス腱固めで渡辺を捉え、ギブアップ勝利を奪った。

■スーパードリームマッチ GLEAT6 人タッグマッチ（60 分 1 本勝負）
杉浦貴＆〇藤田和之＆ケンドー・カシン（19 分 45 秒、エビ固め）秋山準＆関本大介＆谷口周平●

メイン後に組まれたのは、歴戦のツワモノたちが勢揃いするドリームマッチと呼ぶにふさわしい一戦。今年 5 月より全日本から DDT にレンタル移籍中の秋山、大日本の関本、NOAH の谷口の越境トリオが、NOAH で杉浦軍として共闘する杉浦・藤田・カシンと激突した。

初対決となる秋山と藤田は、入場と同時ににらみ合うなど早くもピリピリムード。はやる藤田をコーナーへと下がらせたカシンが、まずは秋山とのマッチアップからゴング。共にレスリングエリートなだけあって、見応えのある主導権争いが続くと、タッチが成立して藤田がリングイン。

藤田はタックルからバックを奪うと秋山をテイクダウン。しかし秋山も素直には寝かされず、グラウンドには持ち込ませない。藤田が相手コーナーへと押し込むと谷口がタッチしてリングイン。

秋山に視線を向けたままの藤田を、谷口がエルボーの一撃で振り向かせると打撃合戦に。両軍が速いペースでタッチをしていく中で打撃を入れるゴツゴツとした展開で序盤は過ぎていく。

カシンを捉えてペースを握る越境トリオだが、レフェリーの目を盗んでのカシンの金的攻撃を谷口が食らうと劣勢に。なんとかタッチに成功すると、リングインした秋山と杉浦とやり合う中、エクスプロイダーの体勢の秋山を関本が 2 人まとめて投げ飛ばすと来場者からの思わず驚きの小声が漏れ出す。

アルゼンチン・バックブリーカーをカットした藤田を関本が睨みつけていると、カシンが背後から攻撃。タッチを受けた関本と藤田による肉弾戦が繰り広げられていく。代わる代わるの連携で藤田を追い込む越境軍も、カウントは 2。

四つん這いの藤田にランニングキックを狙う谷口だが、これはかわされてバックドロップの逆襲に。3 人かかりのエルボーには、タフな谷口も膝から崩れる。一度は反撃に転じた谷口だが、藤田を追い込むまでにはいかず。最後は、谷口の頭部を 2 度蹴り上げてからのパワーボムで藤田が 3 カウントを奪い、熱戦に終止符。決着後も藤田が秋山へとけしかけ、両者の間に遺恨を残す形となった。

■松井大二郎入団、そして海外からの刺客が！

無謀か、それとも挑戦か。混迷の時代に産声を上げたプロレス新団体“GLEAT（グレイト）”。純プロレス、UWF ルール、女子の試合と大きな振り幅を見せた今大会だが、逆にいうならば、昭和・平成と時代が進むごとに細分化を続けていったプロレスという競技を、またひとつに結わう場となれる可能性を秘めているということ。

旗揚げ戦となる“GLEAT Ver.1”は 2021 年 7 月 1 日に東京ドームシティホール開催とかなり先となるが、今回のプレ旗揚げ戦で打たれた点がどのように線となっていくのか。健闘を尽くした伊藤貴則と渡辺壮馬、新入団が発表された松井大二郎、そして海外から参戦の声を上げたサイラス、パラヴィス・メマリ＆ハンター・グレイ、ジョシュ・バーネットらの動向とあわせて、今後の展開が注目される。